



しかはま自然観察会

のらえもん

『 人も 自然も みんな友だち 』

2024 年度

No. 8

2024. 10. 5~6

第8回活動 秋の茶臼岳登山

厚い雲が覆っている。

ロープウェイを降りると、小雨だ。

視界のない中、雨具を着て一步一步足を進める。

それでも子どもたちは元気いっぱい！

スイスイと岩場を歩き、粘土を探す余裕の子も。

頂上で、みんな笑顔で、記念写真！

そして、下山後は、登り切った満足感と冷えた体に、

乳白色の温泉は、あったか〜い！

1, 日 時：2024年10月5（土）～6（日）

2, 天 気：2日間とも小雨 気温は22℃ぐらい

3, 場 所：茶臼岳 1915メートル

宿泊 民宿ほりこし旅館（標高829メートル） 那須塩原湯本

4, 参加者：総数12 内訳 4家族

大人	5
中学	1
小学	2
スタッフ	4

5, 活動の様子

茶臼岳には、2022年7月30～31日、夏の暑い日差しの中を12名で三斗小屋温泉まで歩いたのでした。

その「成功体験を再び」と、「秋の茶臼岳と温泉」としやれ込んで計画しました。

ところが、計画はすべて変更を余儀なくされ、天気は最悪でした。

しかし、当日は「すべてうまくいった！」のでした。

三斗小屋温泉の煙草屋と大黒屋の両方とも満室で、予約はとれませんでした。しかたなく、湯本温泉の民宿を探しましたが、これまた満室とのことで、ようやく「ほりこし旅館」だけが空いていました。大人6000円小学生以下3000円で、部屋にまだ余裕があるとのことでした。安さに多少の不安はありました。

天気予報は、曇りから雨もようです。秋雨前線が東西に日本列島にかかり、あまり動きがないのです。雨の中の登山を覚悟し、いろいろな場合をイメージしながら、当日を迎えました。

新幹線の中から見える山は、厚い雲に覆われています。時折、窓に雨粒が当たりました。バスは全員がすわれるように、1台遅らし、8時発です。切符は2日間有効のフリーパスを購入しました。280円の得で、ロープウェイの往復は10%引きです。このことに前は気づきませんでした。バスは、曇り空の中を走り続けます。

ロープウェイ山麓駅（1390メートル）は、小雨でした。車組みの周さんたち4人と合流です。宿で使う荷物を、周さんの車に保管してもらいました。4分で山頂駅（1684メートル）に着きました。

10時、いよいよ登山開始です。トイレを済まし雨具を身につけ、靴ひものゆるみがないか確認しました。大人はちょっと暗い表情ですが、子どもたちは明るく元気いっぱいです。

記念写真を撮ってから、雲が垂れ込む小雨の中を歩き始めました。歩きづらい砂防の階段は、一番の難関でした。はやる気持ちと体力と呼吸がバラバラです。牛ヶ首への分岐点で、ようやくバランスがとれてきたようです。体があたたかくなり、だんだん調子が上がってきました。

歩くペースが整い調子が上がってくると、周りのものが見えてきます。火山岩の大きな石、砂粒の中から顔を見せる粘土層、岩陰に咲くリンドウやシラタマノキ、赤や黄のザックを背負って登ってくる登山者、お互いに掛け合う「こんにちは」の挨拶。それらが歩を進め疲れを癒してくれるのでしょうか。「鳥居が見えてきたよ」「もうすぐだね」と、声までが明るく元気になってきました。

1915メートルのピークは、もうすぐです。

12人全員で、登頂達成の記念写真。視界の無い小雨の中でも、一人一人の表情は快晴です。全員で一つの目標を達成した喜び、共感、満足感！気持ちが一つになる瞬間でした。登り始めて、1時間のドラマです。

晴れていれば、360度の展望です。さらに茶臼岳の火口を見て、峰の茶屋に下山し、無間地獄を回って牛ヶ首でゆっくり休憩し、最後は山の散策を楽しみながらロープウェイ山頂駅に戻る予定でした。が、今回は頂上だけの行程にしました。「みんないっしょがいいよ」という、春日さんのアドバイスです。納得です。山では全員が同じ行動をとることが、なによりの安全安心だからです。

ロープウェイ山頂駅に戻り、それぞれの昼食。いつこう君は、あったかいカップラーメンをパパに作ってもらいました。そば屋の店主は、テーブルを自由に使わせてくれました。礼儀として、3人はビールを買いました。（飲みたかったからでしょ？）

1410発のバスで、湯本に向かう。気分は「早く、温泉に！」の一言だ。バス停から駐車場に向かい、鹿乃湯を見下ろす。暖かそうな湯気がもうもうと登っている。階段を下り、橋をわたるとすぐ右が今日のお宿「ほりこし旅館」だった。

川沿いにある民宿の中で一番上流にある古い旅館だ。玄関には温泉に行くための下駄が並んでいる。椅子を二つ並べたロビーの回りには、レトロ調の飾りでいっぱいだ。

栗原さんが「全員二階」と部屋割りの声かけをする。私たち男4人の部屋は廊下の

突き当たり、10畳だ。明かりが点かず、グローランプをどこかからとって来て早速修理にとりかかる。「安いから」と文句を言わず、あるもので環境を整え住みやすく出来る「ワザと感性」をそなえた年寄りたちだ。

早速、みんなで温泉に行く準備をする。下駄をはき、狭い道を下って行く。丁度、民宿街がとぎれたところに、ログハウス風の共同浴場「滝乃湯」があった。旅館で預かった鍵で男女のドアを開ける。閉まると、外からは開けられないしくみだ。脱衣場は、けっこう広い。体重を量って見ると、63kg。うーん、ちょっと減ったかな？一段下の浴場に足を踏み入れる。四角い浴槽が二つあり、「あつい湯」「ぬるい湯」だ。湯ノ花が迎えてくれる。体を沈めると、「気持ちいい〜！」と思わず声がでた。見上げれば、すべて木造りの高い天井は目にやさしい。体が暖まってくると、ようやくボソボソと今日の山登りのことが話題になる。

「宿は、ここで大正解だったネ！三斗小屋温泉に予約していたら、あと2時間は、あの雨の中を歩くんだよ。びっしょりだよ、何も見えないし。予約採れなくて、ラッキーだったネ！」

子どもたちがいる、初めての大人もいる。そんなことを考えると、茶臼岳だけの往復で湯本の温泉に入ることができたことは、全員が共通の楽しい思い出になった。

女性の浴場からも、明るい話し声が響いてきたのだった。

5時30分、夕食。瑛太くんの「いただきます」で、10畳に12人が並んで食事が始まった。一人一人の箱膳は、お造り・鰯のフライ・ナスの煮浸し・肉じゃが・ポテトサラダと？・香の物そしてご飯にみそ汁だ。食べ、語り、飲み、12人のなごやかな雰囲気は何にも代え難い。うれしい！ありがたい！のらえもんバンザイ！

翌朝、6時に朝風呂。いいネー、温泉の朝風呂は！民宿と共同浴場だからかな？

7時30分、朝食。いつこうくんの「いただきます」で、空いたお腹にブリの照り焼き・目玉焼き・笹かまぼこ・納豆・海苔・香の物そしてご飯みそ汁をいただく。どれもこれもおいしい！

9時30分に宿を出て、殺生石から温泉神社を回り、解散となる。

宿も天気も思い通りにいかなかったが、そのことが逆に全てが「吉」と転じた今回の活動でした。思い出に残る、素晴らしい旅になりました。ご協力に、感謝。

6, ふり返りの感想

○ やまのぼり

ちょうじょうにたどりつき つかれました。

さむいとき（お昼）かつぷらーめんたべました。

おんせんにはいりました。

しろのいろで あついです。

鹿浜五色桜小1年

○ やまのぼりで てっぺんにのぼってたのしかったです。

しゅうおじさんに あったかいカップラーメンをもらいたべました。

おじさんたちと しかくいおんせんにはいりました。

来年 また スキーにいきたいです。

しんごうみなみ小2年

- 茶臼岳でねん土をとれた。

上（頂上）の方はゴツゴツしていて回りより高く、晴れた時の景色をみたいなと思った。

岩の隅 ぽつんとさくのは 高山植物（しらたものき）

王子桜中学1年

- 1915メートル。

全部登りきった気分で、ロープウェイで降りてきました。

つかれた身体で入った温泉は、極上！

雨の中、みんなで行動していると、何でも楽しいです。

雨の音 川の流れも 自然のささやき

母

- 雨の中の登山でしたが、楽しかったです！

全員で登れて無事下山できて、「岩場がこわかったね」と話したり出来て良かったです。

ありがとうございました。

こんにちは 言葉を交わす 心地良さ

ひと休み めざせ頂上 待っている

中島根保育園

- 初めての登山でした。

年齢・体型を考えてとても不安でした。

最初の10分で、もうあきらめようと思いましたが、周りの方々に励まされ、後半はなぜか呼吸も体も楽になり、無事に登頂できました。

さんねんな天気でしたが、暑くもなく寒くもなく、ちょうど良かったです。

はげましていただき、本当にありがとうございました。

支え合い 声をかけあい 無事登頂

スタッフ

- 小雨降る外に一步踏み出せば子どもは風の子どんどん登る

- 足元に粘土の露頭見つければほじくり出して興味を語る子

- 岩陰にシラタマノキを見つければ小雨の今を忘れてしまう

- 「こんにちは」と声をかけてくる見知らぬ人小雨の中の暖かい言葉

- お互いに声をかけあう「こんにちは」励まされつつ足は一步二歩

- 12人ピークに立ってハイポーズ視界はゼロでも気分は快晴

- 濁り湯に首まで浸かり伸ばす足あ〜いい湯だなと全身がうたう

- 滝乃湯は共同浴場レトロ調板張り床にも湯の華が咲く

- 箱膳に12人がせいぞろい料理を味わいはなしも味わう

- 大勢で食べることの楽しけり子ども父母（ちちはは）おじいもいるよ

- また来よう来年の春も民宿でまた会うことのサヨナラの言葉

- あれこれと不安材料かかえつつ登ればすべて吉とでました

スタッフ 古高 利男